

山口情報芸術センター プレスリリース

近藤芳正率いる 俳優の俳優による俳優のためのユニット

『劇団 ♪♪ ダンダンブエノ』

最新作は“コメディアン”中井貴一を迎えて贈る

ユニークなホームコメディ

# 劇団 ♪♪ ダンダンブエノ 第三弾継続公演 【バナナが好きな人】

制作：ジーツープロデュース

制作協力：ユマニテ

企画・製作：ダンダンブエノ

## 山口公演

日時：2004年5月27日(木) 19:00 開演

会場：山口情報芸術センター スタジオ A

チケット発売

エニー会員先行予約／3月6日(土)～

プレイガイド発売／3月14日(日)～

主催 財団法人山口市文化振興財団

企画制作 山口情報芸術センター

## 公演概要

公演名 劇団♪♪ダンダンブエノ  
第三弾継続公演  
【バナナがすきな人】

作 大森寿美男 & ダンダンブエノ  
演出 近藤芳正  
振付 井手茂太  
出演 中井貴一、いしのようこ、酒井敏也、山西 惇、温水洋一、栗田 麗、近藤芳正

スタッフ 美術／伊藤保恵 照明／吉澤耕一 音響／鹿野英之  
衣裳／花谷律子 舞台監督／村岡晋  
宣伝美術／高橋雅之 制作／大西規世子

公演日時：2004年5月27日(木) 19:00 開演  
会場：山口情報芸術センター スタジオ A  
料金：全席指定 A席 4,000円 A席割引 3,000円 B席 2,000円  
YCAM チケット予約専用電話：  
TEL083-920-6111 10:00～19:00 火曜休館（祝日の場合は翌日）  
お問い合わせ：山口情報芸術センター  
〒753-0075 山口市中園町 7-7  
TEL 083-901-2222 FAX 083-901-2216  
e-mail info@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>  
i-mode site <http://mobile.ycam.jp/>

## 企画内容

【劇団♪♪ダンダンブエノの芝居作りに中井貴一が共感！】

近藤芳正が率いる「劇団♪♪ダンダンブエノ」は『俳優の俳優による俳優のためのユニット』を旗印に作・演出家に頼らず、役者のミーティングやエチュードなどで芝居を作り上げていくというスタイル。今回、中井貴一の隠れたコメディセンスを見いだした近藤がユニット参加をオファーしたところ、中井も「一から作り上げることがしてみたかった」とそのポリシーに共感し、競演が実現。本格的にコメディ作り挑戦する中井貴一に期待がかかります。

【中年俳優たちが「こども」や「犬」を熱演！】

物語は、中井貴一、いしのようこ演じる父母の離婚の危機を「こども」の目から見たコメディ。ダメダメな父母と役に立たない犬たちという、全員どこか変で、でも憎めない、愛すべきキャラクターが繰り広げる騒動をこどもの目線で捉え、描いていきます。なんと〇歳のこども役には怪優・温水洋一（実年齢〇〇歳！）が取り組みます。さらに、飼い犬とその友達の野良犬はダンダンブエノ常連メンバーである酒井敏也、山西惇が熱演。ユニークな劇空間を醸し出します。また栗田麗は近所のおねえさん役、気になる主宰の近藤芳正の役は、エチュードを通して決定していくということなので、こちらは本番でのお楽しみ。

### 【さらにダンスもっ！】

配役の段階ですでにユニークなところへ、さらに井手茂太振付によるダンスも加わってきます。これは夢想癖のあるこどもの、その夢想の部分をダンスで表現しようという試み。夢想の中では厳しいお父さんがひょうきんになったり、いつも恐い先生が気持ち悪いぐらいやさしくなったりと、大人たち現実とは違う姿に豹変。「役者」をうまく使い、日常の動きをダンスに組み込む井手の手腕が冴え渡ります。

また、突然のダンスシーンの挿入ということでは、NHK朝ドラ「てるてる家族」でその手法のノウハウがある大森寿美男が脚本に参加というのも見逃せません。

### 【でも狙いは「微笑み」】

ユニークな話題満載の本作品ですが、主宰の近藤によれば狙いは「爆笑」ではなく「微笑み」にあるとか。

「なぜ、微笑なのかといいますと、台詞の言葉の面白さだけではなく、『あ〜こんな人いるいる！』というキャラクターの面白さが僕は大好きでして、時折爆笑にはなるけれども、そこを目指すのではなく、お客さんには、声にならなくてもいつもニコニコ・クスクスしてもらえそうな、何回見ても飽きない芝居。今回は、観た人の心にいつまでも微笑が残るような、永久保存なお芝居になると思います」（近藤談）

## ストーリー

少年（温水洋一）には悩みがあった。自分の父（中井貴一）母（いしのようこ）が離婚の危機にあるからだ。だが、愛情の冷えた二人に挟まれて辛くはあったが、自分が不幸だという感覚はない。近所のおねえさん（栗田麗）に遊んで貰えれば気も紛れる。

この家族の行く末を一番心配しているのが飼い犬（酒井敏也）だ。なんとか離婚を阻止しようと知り合いの野良犬（山西惇）と相談する毎日。ところが奮闘するたびに、よけいなお節介で、かえって悪い方向へ行ってしまふ。そのたびに犬達は落ち込み、逆に少年に慰められる始末。

ふと少年は思う。「僕の一言で、父さんや母さんの仲は変わるのでは？」その場面を少年は夢想する。そこでは現実とは違い、父は愛嬌たっぷりのいとおしい人となっており、母は人一倍愛にあふれたやさしい人になっている。みんな楽しく踊っている。だが、それは夢に過ぎず、少年もその一言をかける勇気もなく、またその一言が現実を変えることはない冷めてもいる。

少年の夢想も、犬たちの奮闘もむなしく、遂にその日がやって来た。ところが、なすすべもないはずの少年に待っていたのは意外な「贈り物」だった……。

果たして運命の日に少年が得た「幸せ」とは？

エチュードで作り上げていく芝居なので、このベースのストーリーに俳優のアイデアが入っていきます。（例えば酒井敏也のアイデアが採用されれば天変地異がおきてしまう！）従って、今後本番までにどうなっていくかは定かではありませんので、ご了承下さい。

## 「劇団♪♪ダンダンブエノ」とは？

テレビドラマや映画のみならず舞台をも活動の拠点とする近藤芳正が新たな劇空間を求めて、2001年、酒井敏也、山西惇らとたちあげた「俳優の俳優による俳優のための」ユニット。与えられた脚本・演出による芝居作りではなく、俳優同志の徹底したミーティングとエチュードにより台本を作り上げていく形式で、商業主義にはない「手作り感覚」の舞台空間を提供している。

第一弾は、阿部寛を迎え、筋肉トレーニングに励むダメな男たちを描いた。「持ち上げる人」(2002年上演)。役者のエチュードで作った芝居ならではの演技の自由度の高い俳優同士のコラボレーションが楽しい舞台を作り上げた。

第二弾は、俳優たちだけによるダンス公演。「いなくていい人」(2003年上演)。振付、演出に井手茂太を迎え、日常生活の動作をモチーフにした俳優ならではの舞踏世界を繰り広げた。今回の公演は第三弾にあたる。

劇団名の「ブエノ」はスペイン語で「良い」という意味。派手ではないが、見ているうちにダンダン(段々)「良く」なっていく芝居作りを！という願いを込めて命名された。

たった一回の公演で終わるのかと周辺に思われつつ旗上げられた劇団が、「継続すること」・「一年に一度は公演を！」モットーに、活動している。

## 作家&振付プロフィール

作家／大森寿美男(おおもり すみお)

1967年8月3日 神奈川県横浜市生まれ。

小劇場で作、演出、役者などの活動を経て脚本家に。

'98年映画『お墓がない!』(松竹)でデビュー。

主な映画作品に『39—刑法第三十九条—』(松竹)

『黒い家』(松竹)『命』(東映)『木曜組曲』(シネカノン)

『昭和歌謡大全集』('03年公開予定)

テレビドラマ作品に『夜逃げ屋本舗』『泥棒家族』『時空警察捜査一課II』(以上、NTV)

『トトの世界〜最後の野生児〜』『長良川巡礼』『君を見上げて』『強行犯捜査第七係』(以上NHK)最近では2003年10月〜2004年3月「てるてる家族」(NHK朝ドラマ)がある。

第19回向田邦子賞受賞

振付／井手茂太(いで・しげひろ)

ダンス・カンパニー、イデビアン・クルー主宰。

出演者たちの体型、個性を活かしながら、踊る人や観る人がダンスを楽しむことを基本に振付を行う。

MODE×世田谷パブリックシアター公演「アメリカ」の振付や、イギリスのダンスカンパニー、ダイバージョンズ「UnspokenAgreement」の演出・振付など。

また、イデビアン・クルーの主な作品に、『茶バシラ』、『不一致』、『くるみ割り人形』(美術:椿昇\*現代美術家)、『理不尽ベル』(音楽:ASA-CHANG & JUNRAY\*ミュージシャン)などがある。

ダンダンブエノ第2回公演『いなくていい人』では演出・振付で参加する。